

令和元年度第4回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

日 時 :	令和元年11月29日(金) 午後3時 ~午後5時	場 所 :	津山市役所議会棟2階 第2委員会室
出席者			
【委員】	藏田委員長、大山副委員長、小山委員、歌房委員、河部委員、上田委員、岡部委員、岡委員		
【津山市】	財政部長、財産活用課長、財産活用課主幹、財産活用課職員		
【傍聴人】	1名		
欠席者	白石委員、福田委員、堤委員		
1. 開会	委員11名に対して8名の参加で、委員会の成立を宣言。		
2. 財産活用課長あいさつ	財産活用課長挨拶。		
3. 委員長挨拶			
4. 協議事項	(1)第3回ファシリティマネジメント委員会のまとめ 提言書(案)の説明を実施 低未利用公有資産の利活用策検討のフロー図(案)の説明を実施		
	(2)提言書(案)の作成について		
委員長 :	各委員の意見を聞いていきます。		
委員 :	この内容に異論は無い。このような提言が少し前からあったらとしみじみ感じる。以前に阿波地域で事業を進めていこうとしている中で地域の方々の誤解を払拭するのに苦勞したことがあった。事前内容検討前の施設見学から反対されたこともある。その経験から事前に町内会にお話しておくというのは重要だと感じていた。地元であっても自分がどういう立場で関わっているのか、いわゆる身分を明かした上で計画を進めていかないといけないと今はよくわかった。そのときに実施する人たちだけが知っているだけでは駄目で、町内会や市役所に言っておかないといけないなと感じた。これを地元の人に事業を進めていく前に見てもらっておきたかった。		
委員 :	低未利用公有資産のPR活動を市としてしっかりと行う事が必要。低未利用公有資産のどこが使えるのかなどのPR方法は重要になる。今後広報活動が鍵になる。		
委員長 :	低未利用公有資産のPRは必要。提言書の『3 市の留意する事項』の①か⑤にその要素を入れる事とする。		
委員 :	地元にもまず公共施設をどのように利用していくか説明してから、業者なりに個人に声かけをしていけばよい。		
委員 :	ある程度自分たちの持っている情報を相手にも知っておいてもらわないといけない。建物だけでなく周辺状況も気になるもの。		

委員： 低未利用公有資産はどこがあるのかたぶん誰も知らない。市としてどのような資産があるかを公表することが大切。低未利用公有資産の活用を促す事で津山市の活性化につながる。

委員： 地域に埋もれている資産の活用をどうしていくのか、議論を進めていくにつれて地元の理解が大切だと感じた。地域に根ざすというのは言葉で言うのは簡単だが、実際に実現するのは難しいことであるということがよくわかった。

委員： 低未利用公有資産の利活用策検討のフロー図(案)で地域の人たちと計画協議とあるが、ここは一度でうまくまとまるとは思えない。財産活用課と計画内容協議から計画内容の修正までは1回では終わらない。繰り返すということについてフロー図に明記する必要があるのではないか。

また、実施した後の市としての提案事業者との関わり方も重要になるのでそのこともフロー図に追記した方がいいと思う。

委員： 早い段階で地域住民に参加してもらうことが重要。地域・市・事業者でチームのような感じができれば良い方向に進むと思う。地域住民の方の関わり方について時期などを提言に入れられないか。

委員長： 各委員より出た意見をしっかりと反映させたいと思う。修正については事務局および委員長に一任いただくこととし、修正した提言書は送付を行い確認いただくこととしてよろしいか。

委員一同： よろしい。

(3)その他

委員長： 本日で、議論を交わす委員会としては最後となるので各委員から一言いただきたい。

委員： 阿波地域で起きていることが今後他の地域でも起きてくると予想される。何をやるにしても地域の意見をまとめないといけな。そのときに反対意見の人をどう説得すればいいのかが難しいところ。いい提案だと思って提案した若い人たちが地元の少数の反対意見にショックを受け、やる気をなくすこともある。数人の反対者であっても市は尊重しようとするため公共施設のためだからやってくださいとは言わない。やはり公共施設を利用するには大変さがある。実施する者と地域との間に市が入るということは重要。この提言であるが、これが後ろ盾になるような形になればいいと思っている。

委員： 未利用の施設をどう使うかについては地域住民の納得も重要だが、そこに行き着くための提案を作るのも大変。今のニーズに合った公共施設の活用を目指していく必要があると感じる。未利用公有財産を公表してPRし、使ってもらえるようになれば公民連携も加速していくと思う。

委員： 委員会設置以来ずっと委員をやっているが、最初は公共施設にもいろんなものがあることに驚いたことを思い出していた。毎年委員会では小さい内容にでも光を当てて議論を行い提言してきた事が、少しでも前に進んでいることがわかってよかった。提言を出すことが少しずつでも津山市のためになっていることを実感している。

委員： 津山市の公共施設の現状やこれからの課題を知ることができ、解決策について学生の立場で意見反映させてもらった。この経験は、社会に出て役に立つと思う。

委員： 地域住民と市の方がどう地域を作っていくかについて、学生の立場から意見を言うことが出来たと思う。

委員： 去年もこの委員会には参加していて、津山市の公共施設がどれくらいあるのかなど初めて知ることもあった。津山市以外の地域の方にも未利用公有財産について知ってもらうことが必要だし重要。情報発信を市として行っていくことが大切になると思う。

委員： 私の地域は毎年人が増えている。過去の委員会でも統廃合など縮小することについて多くの時間を使い議論をしてきたが、今ある学校を地域としてもう少し使いたい、公民館をもう少し使いやすいようにしてほしいという意見が多く聞こえてくる。また、なかなか公共施設を利用しづらいという意見がある。地域にはお年寄りが増えており、車の運転をできる人が乗り合わせを行っており、そういったことも今後の大きな課題となることであり、公共施設の有効活用と地域課題の解決策の検討を併せて行う必要があると思った。

委員長： それぞれの地域・市・民間で困っていることがある。目標・情報を共有して手を取り合ってやっていこうということが重要。目線が違えば未利用公有財産の価値は違う。その違いを把握し利用しやすい環境を整える事が大切で、この度の協議で利用できない障壁を見いだすことが出来た。それを超えるために必要なことをこの提言書に盛り込めたことは大きな意味があると感じている。これは未利用公有資産活用のための大きな一歩になったのではないかと思っている。

5. 第4回津山市ファシリティマネジメント委員会開催日時について

令和2年2月28日（金） 午後3時から

6. 閉会